

にしっこ 西っ子のみなさんへ 95 6月1日

今日、6月1日は気象記念日です。1875年のこの日、日本初の気象台「東京気象台」が設置され、気象と地震の観測が始まりました。また、1884年のこの日に、日本で最初の天気予報が出されました。

私は毎日、今日の天気を確認してから学校に来ますが皆さんはどうですか？ 最近思うのは、以前に比べると天気予報が本当によく当たるようになったと感心しています。

中学生の時、クラスメートが夏休みの一研究として、気象庁による「天気予報」と「観天望気」と「下駄飛ばし」で、どれ方法が的中率が一番高いかというのを調べた子がいました。ふつうに考えれば、天気予報が1番にならないといけないのですが、どれも大差なしという結果での中率も35%ほどだったと記憶しています。

では、なぜ今の天気予報はよく当たるようになったのでしょうか。それは科学の進歩によるところが大きいと思います。日本の気象観測衛星「ひまわり」が初めて打ち上げられたのが、私が中学校を卒業した年、昭和52年7月14日です。宇宙から雲の動きを観測できるようになったこれだけでも大きな違いといえます。また、現在では、スーパーコンピューターを活用し膨大なデータを使っての数値的な予報ができるようになったところが大きいと言えます。現在の天気予報的中率は85%以上といわれますので、ほぼ当たるといってよいでしょう。



もう一つ、昔は天気予報というと気象庁の職員が出すものでした。今は、気象庁提供のデータを使って、「気象予報士」という資格をもった人が、天気を予想し、その予想を皆さんに提供することができるようになりました。したがって、昔はどのテレビ局・新聞などをみても同じ予報内容でしたが、今は、テレビ局によって違っていることがあります。また、インターネットで検索しても、閲覧するサイトによって、異なっているのが普通です。

「気象予報士」の資格試験が始まったのが1994年からで、現在の合格率は5%程度です。しかし、合格者の最低年齢は11歳11か月（2020年時点）で、小学生で合格している人もいます。一発合格は難しく、平均で4～5回の挑戦が必要のようですが、あきらめず挑戦し続けることが大切だということですね。

この制度が始まったことで、狭い範囲での天気予報が可能となり、よりの中率が高まっているともいえます。岐阜県の気象台は、岐阜市にありますが、岐阜市と瑞穂市では天気が異なることもあります。瑞穂市専門の天気予報が出されれば、的中率が上がるということです。

※「観天望気」は、光や雲や風などの自然現象を観察し、天気を予想することをいいます。